

令和5年度 第2回尾張東部教科用図書採択地区協議会 議事録

- 日 時 令和5年7月7日(金) 10:00
- 場 所 小牧勤労センター 多目的ホール
- 出席者 協議会委員 34名 研究部長 13名 (欠席1名)

1 開 会

- 開会宣言

2 会長あいさつ

- 尾張東部教科用図書採択地区協議会会長よりあいさつ
 - ・ 本日の会議は、教科書採択の公正確保のため、非公開で行うことを確認する。
 - ・ ここに至るまでの経過を報告。
令和5年5月8日(月)と5月24日(水)に本協議会の研究員打合会を開催し、その後、教科用図書について研究。
 - ・ 本日、その研究成果を報告するとともに、委員の協議により、本地区の子どもたちにとって一番ふさわしい教科用図書を選定していきたい。

3 協議方法について

- 選定の方法
 - ・ 協議会の会議において、委員全員の一致によって決まる。
- 資料の確認
 - ・ 愛知県令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準
 - ・ 尾張東部教科用図書採択地区協議会選定資料
- 協議進行の手順
 - ・ 研究部長より、選定資料をもとに各教科用図書の説明
 - ・ 研究部長に質疑
 - ・ 研究部長退席後に、協議・選定

4 教科部長報告及び質疑、協議

- 小学校国語の報告
 - ・ 見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、光村図書の3社について研究し、報告(学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等)。
- 小学校国語の質疑
 - ・ 近年、児童が背負うランドセル等の重さが問題になっているが、教科書の重量に対して特筆すべき差が見られるか。
→ 教科書会社や学年によってまちまちである。すべての巻の重量を調べた結果、内容が充実していて

比較的軽量に作られているのは光村図書である。5・6年生に関しては、東京書籍と光村出版は、1年間の学びの見通しを持ち、前に学習したことを振り返りながら自ら学習を進めるように学年1冊で、中学校進学への準備となっている。

- ・ 単元の構成について、学習目標・計画が立てやすく配慮されているか。

→ 学習者が見通しをもって学習ができるよう配列されている。特に光村図書は、各巻冒頭に「国語の学びを見渡そう」という学びを進めるイメージを示してある。ブックインブックで、ページ幅に段差があり開きやすくいつでも学び方を確認することができる。不思議だな、どうしてだろうという「問い」は学びのエンジンであり、自分の問いがあるから目標も自分のものになる。学習の見通しが明確に持てる工夫がなされている。

- ・ 言語活動の創意工夫や語彙指導、読書指導の充実が図れる構成になっているか。

→ 学習内容や実生活に関連した言語活動の例示や、読書生活を豊かにできるよう工夫されている。光村図書の関連図書の紹介は比較的豊富で詳しい。また2年生以上の巻末(下巻)に、「伝え合うための言葉」「言葉の宝箱」「学習に用いる言葉」と語彙力を高める工夫が見られる。

○ 小学校国語の協議

- ・ 言語活動について、どの会社も学習内容や実生活に関連して例示がされており、読書生活を豊かにできるように工夫されている。その中で関連図書の紹介など内容が充実していて、なおかつ教科書が比較的軽量に作られているのは光村図書であるとの報告もあった。学習に取り組む主体性や教科書の使いやすさを考えると評価できる。

- ・ 主体的に学ぶという観点では、児童が見通しをもって学習することが大切である。特に光村図書では「国語の学びを見わたそう」で学びの流れが一目で分かるように明示されている。また、巻頭に前学年の学びの振り返り、現学年の学びの見通しをもつことができるページが設けられており、長期的な学習の見通しと学ぶ意欲をもたせる工夫がされていることもよい。

- ・ 「あいちの教育の基本理念」に照らし合わせると、光村図書においては、人としての生き方を考えさせられる優れた文章が数多く掲載されており、豊かな人間性を育むことができる。また、言語活動は児童に分かりやすく、想像しやすい作品や挿絵が充実しており、語彙を豊かにし、ものを見方を広げるように工夫されている。さらに、学習活動ごとの進め方、活動例を充実させ、学習指導要領の趣旨もしっかりと反映させている。これまでの意見もふまえ、光村図書の教科書を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「光村図書」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校書写の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、光村図書の3社について研究し、報告(学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等)。

○ 小学校書写の質疑

- ・ 書写の教科書として、改善されていることや配慮されていることがあると思うが、どのような点に

ついて評価したか。

→ 各社とも、見通しをもって自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組めるよう配慮されていた。その支えとなるようQRコードにより様々な動画が視聴できるようになっていたり、SDGsへの取組を意識した要素が取り入れられたりしている。主体的・対話的に学びながら書写の基礎・基本をしっかりと身につけるための工夫がされていること、文字や言葉に対する興味・関心を高めたり、伝統的な言語文化に親しんだりすることができるような工夫がされているかについて評価した。

・ あいちの教育ビジョン2025には、基本的な取組の方向として「自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育む」ということが挙げられているが、この点については、どのように取り扱われていたか。

→ 各社とも、「主体的、協働的な学び」の実現のため、児童自らが考えられるように、思考を促す表現や問いかけを多用したり、話し合う場面を設定したりするなどの配慮が見られた。さらに、QRコードを読み取ることで動画が視聴できるなど、ICTを活用することで様々な場面において学習が進められるように工夫されていた。

・ 文字を正しく整えて書くだけではなくて、書写で身に付けた能力を学習活動や日常生活に生かす力を育てるための工夫はされていたか。

→ 各社とも、姿勢や運筆方法、字形の整え方などの、基礎・基本が確実に習得できるよう構成されていた。特に、書写で学習した内容を、各教科や学校生活のどの場面で生かせるのかがすぐにわかる教材を取り上げ、下書きから完成までの過程について写真を使用することでイメージしやすく、日常へ生かす流れがわかる構成になっていた。

○ 小学校書写の協議

・ 見通しをもって自ら課題をみつけ主体的に学習に取り組むことができる配慮がされている中で、特に教育出版の教科書は、学ぶ内容が明確で、「考えよう」「ここが大切」「生かそう」の3つのステップで学習の流れが分かりやすく示されており、主体的な学習に適していると考えられる。

・ 各会社とも姿勢や運筆方法、字形の整え方など「書く力」を育成するための基礎・基本を大切にしている。教育出版では、習得した書写の力を、日常生活や他教科の学習活動における活用が明確で工夫されている。また、考えや思いを伝え合う学習活動を通して自己の可能性を伸ばす力を育む工夫がされている。

・ 視覚的に学習内容を理解することは学びを深める上で大切なことである。その観点から、図版や写真の掲載に合わせて筆使いや字形の整え方を確かめるポイントが示されていること、QRコードを読み取ることで動画が視聴できることも学びの深まりにつながる。また、学習したことを他教科や日常生活に生かせる教材が多数取り上げられ、整った文字を書かせるだけの学習にならないよう工夫がされている。これまでの意見もふまえ、教育出版の教科書を選定してはどうか。

・ 協議の結果、全員一致で「教育出版」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校社会の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、日本文教出版の3社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校社会の質疑

- ・ 小学校と中学校における系統性や連携への対応はなされているか。
→ 東京書籍には各単元に「まなび方コーナー」が、日本文教出版には「学び方・調べ方コーナー」があり、聞き取り調査やレポートの書き方、資料の読み取り方などの技能を習得でき、中学校での学習を円滑に進められるようになっている。また、6年生の巻末に「中学校に向けて」や「中学校へ向かって」が設けられ、地理・歴史・公民各分野への期待と意欲が高められるよう配慮されている。各社とも、発達段階に即した系統的な指導ができるようになっているが、小中連携をより重視しているのは東京書籍と日本文教出版である。

- ・ 各教科書には、どのような構成の工夫があるか。

- 東京書籍は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という流れで構成され、それぞれの学習段階での具体的な学習の進め方を説明している。また、単元の「学習問題」や本時の「めあて」が大きく明示されており、問題解決的な学習に向けて、また個別最適な学びを進めるうえで展開が見通せるよう構成されている。他2社も似たような構成ではあるが、教育出版、日本文教出版とも学びの段階を示す表示がやや小さいため、東京書籍がより明確で分かりやすい構成であると考えている。

- ・ ICTを活用した教育を進めるにあたって、どのような工夫がされているのか。

- 各社とも二次元コードを使用して、デジタル教材を使用できるよう配慮がされている。東京書籍は映像コンテンツが充実しており、学習内容に合わせたワークシートのデータの使用もできる。教育出版は、二次元コードにマークをつけ、デジタルコンテンツを使用しやすいよう配慮がされている。日本文教出版は、ワークシートはドキュメント形式でも使用でき、PCを使用して直接入力できるようになっている。各社とも児童自身でデジタルコンテンツを使用でき、主体的に学習が進められるようになっているが、内容が充実しているのは東京書籍である。

○ 小学校社会の協議

- ・ 東京書籍は、見方・考え方を働かせながら、問題解決的な学習を通して、社会的な事柄に参画・提案しようとする意欲と態度を育てることができるような単元構成になっている。また、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階が示され、学習指導要領にある主体的で・対話的で深い学びを実現するのに適していると考えられる。

- ・ 社会科の学習をとおして、一人一人が社会の一員であり、社会をつくる上で自分自身がどう関わっていくか考える力を身につけさせることが大切である。自分事として考え、主体的に学習を進めるために、児童自身で使用できるデジタルコンテンツが充実しており、かつ健康面への配慮がなされている。

- ・ 自分事として社会的な問題を捉え、主体的・対話的な学びを通して、自分の考えを深めていくこと

が望ましい。その社会的な問題として、愛知県やその周辺の身近な事例から、SDGsやAIなど、社会の変化に対応した内容を精選して取り扱っているのが東京書籍である。また、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階が示され、社会科の学び方を習得しながら、学習指導要領が掲げる主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されているのも東京書籍のよさであると考えられる。東京書籍の教科書を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校地図の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍と帝国書院の2社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校地図の質疑

- ・ 「あいちの教育の基本理念」を達成するために、どのような編集の違いがあるか。

→ 帝国書院の地図帳は、愛知県の産業について、地方別地図と詳細なテーマ別地図で、国内外との関わりにも着目して編集されており、郷土の特徴を魅力として学ぶことができるようになっている。東京書籍の地図帳は、愛知県の文化・産業について、地方別地図とテーマ別地図で、近隣地域との関わりにも着目して編集されている。

- ・ 地図帳の「使いやすさ」という点での違いは何か。

→ 帝国書院の地図帳は、明るく鮮やかな色合いでメリハリのある表現がされているため、特に高低差や土地利用が分かりやすくなっている。内容が精選され、表記や配置も工夫されるなど、全体量が適切で、効果的な地理学習に資すると思われる。東京書籍の地図帳は、等高断彩表現が詳細で、多くの情報が、似た色調で配置されている。

- ・ 3年生から使用するようになっているが、その点で違いはあるか。

→ 帝国書院の地図帳は、地図帳の使い方を14ページにわたって、丁寧に解説している。3年生の発達段階でも地図に親しむことができるよう、イラストを使っての解説を多用する等、分かりやすく、使いやすいものになっている。東京書籍の地図帳は、地図帳の使い方を8ページにわたって、丁寧に解説している。親しみやすいキャラクターを使い解説している。

○ 小学校地図の協議

- ・ 帝国書院の地図帳は、土地の高さによる色分けと土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現で、高低差や地形の様子が捉えやすく、レイアウトの統一や色覚特性に配慮した色づかいなど、すべての児童にとって使いやすいようになっている。

- ・ 帝国書院の地図帳は、地図・写真・イラストが豊富であるとともに、比較・関連させて考察できる資料が多い。社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決的な学習ができるように配慮されており、評価できる。

- ・ 学習指導要領では、地図帳や地球儀の活用が重視され、それらの指導の一層の充実が求められている。帝国書院の地図帳は、巻頭に地図帳の使い方について分かりやすくまとめられており、児童が地

図帳に親しみやすいように工夫がされている。さらに、写真やイラストに加えて、ICT端末を活用した資料も適切に配置され、地図に対する興味・関心が高められるように配慮されている。主体的な学びを実現できるような工夫がされている帝国書院の地図帳を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「帝国書院」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校算数の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版の6社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校算数の質疑

- ・ 学習指導要領の算数科の目的に「数学的な見方・考え方を働かせ」とあるが、これはどのようなことか。教科書にはどのように反映されているか。

→ 学習指導要領解説の算数編では、算数科の学習においては、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり活用・探究したりすることで、思考・判断・表現できる力が育成されていくと述べられている。また、「学びに向かう力、人間性等」についても、「数学的な見方・考え方」を通して社会や世界にどのように関わっていくかが大きく作用しており、「数学的な見方・考え方」は資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のすべてに働くものであると書かれてある。今回の検定教科書では、見通しをもつ段階を可視化したり、操作・式などを用いて思考・表現する活動を軸として展開したりすることで、数学的な思考力・判断力・表現力が身に付けられるよう編集されている。特に啓林館では、キャラクターの発言を用いながら、特に価値付けたい数学的な見方・考え方には色網掛けをして強調するという工夫がなされている。

- ・ プログラミングやSDGsは、教科書にはどのように反映されているか。

→ 変化が大きくなる未来社会では、学んだことを自分の生活に取り入れ、問題を解決しようとする姿勢が必要となってくる。今回の検定教科書では、プログラミングの題材を第1学年から取り入れているところが多く、プログラミング的思考を小さいころから育むことができるようになっている。またSDGsについては検定教科書によって扱う学年の始まりは様々であったが、算数で学習した内容を生活に広げ、社会の形成に参画する態度などを養うことができるような構成になっている。特に啓林館では、身近な社会問題に触れ、問題統計の学習を充実させ、データ収集やその表現方法を考えたり、自然災害にどのように対処するかを考えたりすることができるよう工夫されている。そして、社会の答えが一つに定まらない問いに対して算数を使って取り組み、自分たちに何ができるかを考える機会をもつことができるように構成されている。

- ・ 教科書選定の観点・着眼点に「あいちの教育ビジョン2025の『基本理念』と『基本的な取組の方向』を踏まえた『生きる力』を育む学校教育に資する特色がみられるか」が挙げられているが、算数の教科書ではどのようなことか。

→ 「基本的な取組の方向」に「自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます」とある。今回の検定教科書では、SDGsなど身のまわりの事象を多く取り上げ、算数で学んだことを家庭や地域でいかすことができるように工夫されている。また、協働的に学ぶ場面を多く取り入れ、多様な考えに触れ、自らの考えを高めることができるよう工夫されている。そして、基礎・基本の定着を図るために、視覚に訴え理解を深めるための動画であったり、繰り返し学ぶことができるよう練習問題があったりと、デジタルコンテンツが充実しており、個別最適な学びに適した構成になっている。児童は様々な課題を解決していくことで、自分に自信をもち自分らしく生きていく力を育んでいけると考える。特に啓林館では、日常生活や身近な題材を多く取り上げて児童の興味・関心を喚起し、算数の有用性を実感できるように工夫されている。また、学習の定着を図るページでは、問題演習のできるデジタルコンテンツが用意され、よくある間違いやヒント、答えを児童自身で確認し自学で取り組めるように工夫されている。

○ 小学校算数の協議

- ・ 算数では、その有用性を実感できることが大切である。啓林館の教科書では、日常生活や身近な題材を多く取り上げて、児童の興味・関心を喚起するとともに、児童から目当てを引き出す授業展開ができるといった特徴が見られる。
- ・ 啓林館の教科書は、SDGsの取扱やプログラミング的思考を育むという視点でみると、身近な生活に関連した題材を取り上げ、自分たちに何ができるかを考える機会をもつことができるように構成が工夫されている。また、学習の定着を図るページでは演習用のデジタルコンテンツが用意され、主体的な学びを促す工夫がされている点も評価できる。
- ・ 児童が主体的に学習を進めるため、啓林館の教科書は「めばえ」「めあて」「まとめ」が例示されていたり、特に価値付けたい数学的な見方・考え方は色網掛け記されていたりなどの工夫が見られる。各会社とも単元構成や紙面の見やすさを工夫し、学びをわかりやすくしているが、特に啓林館の教科書は、日常生活や身近な題材を取り上げ、解決の必要感ももてる内容構成になっていることから、啓林館の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「啓林館」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校理科の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校理科の質疑

- ・ 児童が使いやすく読みやすい教科書という観点で、5社の見本本を比較してどうか。

→ 今回扱った5社の教科書については、児童が使いやすい、読みやすいという構成・内容となっている。いずれもインクルーシブ教育への配慮から、ユニバーサルデザイン書体を採用し、またカラーユニバーサルデザインの観点から色覚の多様性に配慮した配色やレイアウトを採用している。東京

書籍、大日本図書においては、A4判の紙面で、写真や図などの資料が大きく配置され、鮮明で分かりやすくなっている。特に、東京書籍の教科書は、読み物や写真などの資料をQRコンテンツに移行するなどして現行の教科書よりページ数を削減して軽量化し、児童の身体的負担軽減に配慮している。

- ・ 学習指導要領にある「観察、実験などを行い、問題解決の力を養う」という観点で、5社の見本本を比較してどうか。

→ 今回扱った5社すべてにおいて、自然の事象・事物に触れてから問題を見出したり、観察・実験を行ったりできるように編集されている。教科書の巻頭に、問題解決学習の過程(学び方)を掲載され、「問題をつかむ」「調べる」「まとめる」「広げる」のように、全単元において学習の手順が矢印や色分けによって分かるような(見える化)構成となっている。その中で、東京書籍、大日本図書、啓林館では、理科の見方・考え方を具体的に示してあり、問題解決の力を養うことができるように編集されている。特に、東京書籍においては単元導入時に問題をつかむための活動「レッツスタート」が設定されており、デジタルコンテンツを効果的に活用し、活動や写真資料を基に、児童の興味・関心を高め、問題解決学習にスムーズに入ることができるように工夫されている。

- ・ 主体的・対話的で深い学びが実現できるような教科書になっているか。5社の見本本を比較してどうか。

→ いずれも「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように工夫されている。各社とも、単元導入での児童の興味・関心を高める資料を用いて主体的に学習に取り組み、対話ができる展開となっており、また考察の場面では、理科の見方や考え方を働かせて対話的な学習活動によって深い学びにつながるように構成されている。中でも、東京書籍、大日本図書においては、問題解決の過程で働かせる理科の見方や考え方を各所に示し、児童が意識的に働かせながら思考することで、深い学びを実現できるよう工夫されている。

○ 小学校理科の協議

- ・ 児童の使いやすさの観点で見ると、東京書籍は、ユニバーサルデザイン書体を採用し、配色及びデザインについて色覚の多様性に配慮していることに加えて、読み物や写真などの資料をQRコンテンツに移行することで、児童の身体的負担軽減にも配慮しており、評価できる。
- ・ 東京書籍においては「理科の見方・考え方」を具体的に示し、問題解決を進められるような構成になっている。また児童が深く考え、他者と対話することを通して、思考力・判断力・表現力等を育成するように編集されている。
- ・ 観察・実験を通して問題解決の力を養うことは重要であるが、何よりも安全面の配慮がされなければならない。その点で、東京書籍は安全面における注意事項が目立つようにマーク表示や赤字で強調されており、配慮が見られる。また、児童が主体的・対話的に問題をつかみ、見通しをもって問題解決活動に取り組める内容が選択されているとともに、単元末には学んだことと日常生活や社会とがつながる活動が設定され、理科の深い学びや有用性が実感できる。これまでの意見もふまえ、東京書籍の教科書を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。
- 小学校生活の報告
- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、啓林館の6社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。
- 小学校生活の質疑
- ・ 生活科では、幼児期の教育や各教科等との接続・関連が非常に大切だと思うが、教科書ではどのように工夫されていたか。
- 特に幼児期の教育との接続については、架け橋プログラムの観点から、各社とも「幼児期に行っていた活動」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を取り上げていた。また、スタートカリキュラムの中で合科的な学習を取り入れたり、その他の活動でも、他教科との関連について示したりしていた。
- ・ 多くの出版社がA4判を採用している中、学校図書、啓林館では小さめになっているとの報告だった。大きさの違いで使いやすさの違いはあるか。
- 学校図書と啓林館はコンパクトで持ち歩き易さがある一方、重さではどの出版社のものもそれほど変わりはない。東京書籍では、A4判の大きさを生かし、大判の躍動的な写真で、児童の思いを膨らませるよう工夫されていた。また、教育出版ではページ数はそれほど変わらないが、他の教科書より少し軽量で持ち運びやすいと感じた。
- ・ 東京書籍や学校図書では、キャラクター達が、活動から出た問題点を話し合い解決していく姿が描かれているという報告があったが、どのような場面か。
- 東京書籍の「おもちゃづくり」では、紙コップロケットを作る時に、「どうして飛び方が違うのかな」「輪ゴムをたくさんつけたら高く飛ぶのかな」と2人で相談する場面が描かれていた。学校図書では友達のアサガオと絡まって「困ったな」と顔を見合わせる場面から、支柱を立てる様子まで示されていた。
- 小学校生活の協議
- ・ 各会社で主体的・対話的で深い学びを実現できるように工夫されている。その中で東京書籍は、育成を目指す資質・能力の3つの柱を吹き出して具体的に例示するなど、学びのプロセスが分かりやすい。指導と評価の一体化という観点からも望ましいと考えられる。
 - ・ 低学年の学習では特に児童の意欲を高める必要がある。東京書籍の教科書は、学習内容や発達段階に応じた多様な表現方法が示され、2年間を通じて活動や表現方法の質が高まるように工夫されている。各会社よいところはあるが、東京書籍の教科書は低学年が取り組みやすい活動内容や分量である。
 - ・ 児童の関心・意欲を大切にしながら、具体的な活動や経験を積み重ねて学びをつくっていくのが生活科である。東京書籍の教科書は、写真やイラストが大きく、また学習の流れが明確になるようマークやコラム等が同じ位置に配置されている。そして身近で取り組みやすい体験活動と表現活動が交互

に繰り返されるなど、主体的な学習が実現するよう工夫が見られる。児童の思いや願いを大切に、質の高い気付きや活動の深まりが期待できることから、東京書籍の教科書を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校音楽の報告

- ・ 見本本の送付のあった教育出版社、教育芸術社の2社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校音楽の質疑

- ・ 学習指導要領の目標や内容を達成するために工夫されている点についてはどうか。

→ 両社とも音楽科の目標である「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」が着実に達成できるような教材や学習活動が充実している。教育芸術社、教育出版社ともに、低・中・高の各学年の目標及び内容を踏まえて精選された題材と教材によって、必要な範囲の内容が適切に扱われるよう配慮されているが、教育出版社では、小学校の学習指導要領外の内容についても、その旨が明記され、児童の主体的な学びとの関連に配慮した扱いとなっている。

- ・ 鍵盤ハーモニカやリコーダーなど、技能の差がつきやすい器楽の指導について、どのような工夫がなされているか。

→ 両社とも、イラストや写真を使い、具体的なアドバイスを掲載し、児童が楽しく器楽の練習をすることができるように工夫されている。特に教育出版社は鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入時には細やかなステップで練習を進められるように工夫され、進出音も緩やかな段階を追って扱われるなど、着実に技能が定着していくように配慮されている。また、サミングや、指またぎなど、児童が躓きそうところはイラスト・写真・文字など多様なツールで分かりやすく説明している。ICT機器を使って、自ら動画で確認をすることができるよう工夫されている。

- ・ あいちの教育ビジョン2025とどのように関連しているか。特に（4）ふるさとの魅力やあいちの伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人を育むについてはどうか。

→ 両社ともわらべうたや各地のお祭りの音楽やお囃子、民謡等が全学年にわたって豊富に掲載され、伝統と文化の尊重や郷土を愛する心を育むように配慮されている。その中でも、教育出版社では、日本の民謡をたずねと題材で、日本各地に民謡が多数あることを視覚的に提示し、曲を聴くだけでなく「こきりこ」の演奏方法を動画で示したり、児童が伴奏作りをし易いように提示したりしていて分かりやすい。

○ 小学校音楽の協議

- ・ 両社とも、各学年の目標や内容に対応した題材が系統的・発展的に構成されている。その中で教育出版は話し合いの視点を明示するなど、音楽科の特質を生かしながら言語活動の充実を図るとともに、主体的に学んだり協働的な学びを通じて学習を深めたりすることができる。

- ・ 両社とも郷土の音楽や伝統芸能を取り扱い、伝統文化を尊重しようとする心を育む工夫が見られる。

教育出版社は我が国だけでなく世界の音楽文化も取り上げ、物事を多面的に捉える資質を育む工夫がされており評価できる。

- ・ 児童が音楽の学習を進めるにあたり、音楽的な見方・考え方を働かせながら主体的に学んだり、協働的に学習を深めたりすることが大切である。教育出版の教科書は、「学習マップ」で1年間の学習内容とつながりが分かりやすく示され、学習の見通しがもちやすい。さらに、児童の発達段階に応じて具体的な活動を示し、興味関心をもって学習できるように工夫されている。両社よい点があるが、これまでの意見もふまえ、教育出版の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「教育出版」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校図工の報告

- ・ 見本本の送付のあった開隆堂出版、日本文教出版の2社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校図工の質疑

- ・ 愛知の教育の基本理念について、各社の記述はどうであるか。

→ 開隆堂は、鑑賞作品でアールブリュットの作品を紹介し、SDGsやインクルーシブ教育の観点を取り入れた構成にするなど、多様性、人権尊重に関わる道徳性や社会の一員として他と連携していこうとできる社会性を育めるよう工夫されている。日本文教出版社は、さまざまな国の作品を扱う鑑賞資料や、多様な表現方法を紹介する児童作品の掲載しており、多様な人々との協働や多面的な見方・考え方の形成につながると考えられる。また、「教科書美術館 受け継がれてきた形」で伝統工芸が多数紹介されており、今も残る愛知の伝統工芸についての発展的な学習へもつなげられる。SDGsの観点から材料を選ぶ、障がい者多機能型事業所での取り組みを紹介するQRコンテンツを掲載するなど、多様性、人権尊重に関わる道徳性や社会性を育む工夫がされている。

- ・ 子どもたちが見方・考え方を働かせやすいように工夫している点はどこか。

→ 両社とも「学習のめあて」が3観点とも示しており、児童も教師もめあてを意識しながら授業に取り組めるように工夫している。また、「ふりかえり」についても示されており、見方、考え方の確認が行いやすくなっている。めあて・評価にかかる部分は文章だけでなく見た目に、直感的に理解できるよう考えられている。開隆堂は、観点別にキャラクターを用いて説明している。短く明確で分かりやすいめあてで、評価するポイントが把握しやすくなっている。一方、日本文教出版は、アイコンを用いて観点を分けている。3つの資質・能力に係るめあてがすべての題材で示されている。製作途中の写真と併せて表現や発想のヒントを吹き出しで取り入れている。

- ・ 提示されている題材の分野について、どのような違いがみられるか。

→ 開隆堂は題材ごとに評価すべき資質・能力が限定されているため、掲載されている題材数が多く、全学年分野ごとの平均は絵7・工作7.3・立体6.3・造形遊び3・鑑賞6.1合計29.7の題材数になる。造形遊び以外の分野はどれも同程度の数となる。様々な題材に出会えることは幅広い表現を知ることになる。題材数と設定されている資質・能力から、実際の表現に重きを置いている内容となっている。

一方、日本文教出版は全ての題材において3つの資質・能力を評価するため、題材数は絞られており、絵6・工作5.3・立体3.5・造形遊び3・鑑賞2.2合計20の題材数になる。鑑賞が特に少ないように感じられるが、全ての題材において鑑賞活動を取り入れている。一つ一つの題材に時間がかけられ、材料費の支出も抑えられる。題材数と設定されている資質・能力から、生活や社会における造形的視点に重きを置いている内容になっていることが分かる。

○ 小学校図工の協議

- ・ 図画工作科の学習で大切なことは、多くの作品に触れ、感じたことや考えたことを表現することであると考える。日本文教出版の教科書は、多種多様な美術作品、制作過程や表現方法を多く取り上げており、多様な人々との協働や多面的な見方・考え方につながる内容となっている。
- ・ 日本文教出版は制作途中の画像が多く取り上げられており、児童が見通しをもって制作に取り組むことができるように工夫がされている。また、「材料と用具のひきだし」で材料や用具を紹介するとともに、関連動画等も充実させている。児童の意欲や発想を支える工夫が充実している。
- ・ 日本文教出版の教科書では多くの作品にふれることを大切にするとともに、すべての題材に鑑賞活動を取り入れ、表現と鑑賞を一体として扱っている。また、両社とも育てたい資質・能力に沿って「めあて」「ふりかえり」を示している点では同様だが、日本文教出版においては児童が自らの学びを生活や社会へとつなげていくことができるよう工夫されている。これまでの意見もふまえ、日本文教出版の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「日本文教出版」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校家庭の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、開隆堂の2社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校家庭の質疑

- ・ あいちの教育ビジョン2025では「人としての在り方、生き方を考える教育を充実させ、実践力を伴った道徳性・社会性を育む」教育理念を掲げている。両社の取り組みの工夫はどうか。
- 両社とも、実践的・体験的な学習を通して、仲間や家族、地域の人々と協力して、よりよい生活を創り上げる力を育む工夫がされている。資料では、右利きと左利きの場合の資料、幼児や高齢者、障がいのある人々、外国にルーツのある人々が掲載され、多様性に配慮し、共生の視点に気付くことができる工夫がされている。東京書籍では、性別による役割固定にならないように配慮するなど、他者を思いやり、人権を尊重する態度を身につける工夫がある。開隆堂では、すべての人が平等であることを前提に、多様なイラストを用い、インクルーシブ教育の視点にも配慮している。- ・ 一人一台端末が令和の学びのスタンダードとなり、あいちの教育ビジョン2025では、大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障についても基本的な取り組みとしてあげられているが、そのためにどのような工夫をしているか。

→ 文科省のGIGAスクール構想を受け、2社ともに各ページにQRコードを掲載しており、タブレット等

のICT機器からデジタルコンテンツを利用できるようになっている。多彩な動画やアニメーションにより、子どもが自己調整しながら学習を進めたり、繰り返し動画で確認したりできる等、指導の個別化にも対応している。デジタルコンテンツを利用することで、緊急時の休校中であっても、インターネット環境さえあれば、児童の学びが継続されるよう工夫されている。

- ・ 今回の改訂では、開隆堂もA4判となっているが、2社ともに大判となったことで、どのような点がより使いやすくなったか。

→ どちらも、A4判を用いることで情報量を充実させて資料面、視覚的効果を高め、学習の流れが把握しやすい紙面になっている。東京書籍は1つの実習を見開きで概観することができるため、開いた状態で見ながら実習できるレイアウトになっている。開隆堂は大きくなった分、写真やイラストを大きくしたり、紙面をゆったりと設計したりするなど、よりダイナミックに、分かりやすい紙面の工夫をしている。

○ 小学校家庭の協議

- ・ 東京書籍の教科書は、よりよい生活を実現し創造性を身に付けるために、各単元において日常生活から問題を見だし、考えたり実践したりしながらその課題を解決する流れを取り入れる工夫がされていることが評価できる。
- ・ 家庭科では、学習を通じて身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用できるよう、家庭や地域との連携を図ることが大切であると考え。各社とも配慮は見られるが、特に東京書籍は、「生活を変えるチャンス！」を3カ所に設定し、学んだことを生かし、家庭や地域でも生活をよりよくするために実践しようという意欲を高める構成になっている。実践的な力の育成の観点から望ましいと感じる。
- ・ 家庭科においては実践的・体験的な活動の充実を図る必要がある。東京書籍の教科書は、衣食住に関する実践的・体験的な活動の際に関わる見方・考え方の視点を明確にしている。生活をよりよくしようと工夫する資質・能力が育成されるよう配慮されている。また、動画等の資料誘導マークが鮮明で、必要に応じて資料を選択し、主体的に学びを深められるようになっている。植物油インキや軽量の再生紙の使用など、環境や児童の負担軽減への配慮がなされている。細かなところまで配慮されている東京書籍の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校保健の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、大日本図書、大修館、文教社、光文書院、学研の6社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校保健の質疑

- ・ ICT機器や一人一台端末を活用するために、新しい教科書で工夫されていることは何か。
- これまでは、拡大などを行う際、教師主導で実物投影機などを使用していた。今回の教科書には、

随所に端的で分かりやすい動画や二次元コードを配置している。そのことにより、いつでもどこでも何度でも確認したり、閲覧したりすることが可能になるよう工夫されている。さらに、たくさんのコンテンツから必要に応じて情報を収集しようとする情報活用能力の育成に役立ったり、個別最適な学習や課題解決の一助になったりするよう工夫もされている。

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、新しい教科書で工夫されていることは何か。
- どの教科書も保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習課程を設定している。大日本図書においては、SDGsとその関わり、コロナ感染予防、犯罪予防、著名人の目標達成ウェブコンテンツが加味され、これらを通じて子どもたちの知的好奇心をかき立て、よりアクティブにできるよう工夫されている。「たのしい保健ウェブ」では、コンテンツ数を増やし、動画やシミュレーションなどが豊富で、児童の興味・関心をさらに高められるように工夫もされている。単元の導入に学習ゲームを取り入れ、楽しみながら学習課題をつかみ、主体的に学習に取り組むことができる構成になっている。また、個に応じて学習内容を深めることができるように『ミニ知識』『はってん』『もっと知りたい』等の読み物や資料が示されている。さらに、対話を通した活動から、思考を広げ深められるように、伝え方や聞き方の注意点が具体的に示されている。

- ・ 現代的な諸課題に対して、工夫されている点は何か。
- オリンピック・パラリンピック教育、安全教育、外国語教育、キャリア教育、性の多様性など多岐にわたり現代的な諸課題について取り上げている。また、専門家の監修のもと、SDGsや災害教育についても身に付けることができるよう、写真や資料等を用いて、児童の興味関心を高められるように工夫がされている。さらに、様々な諸課題について児童自身でも対応ができるよう、技能の習得に役立つ動画の紹介や児童の心の健康に配慮し、スクールカウンセラーの紹介や、「いろいろな相談先」を掲載している。

○ 小学校保健の協議

- ・ 大日本図書の教科書は、資料や知識等の情報が精選され、見開き2ページで1時間の学習内容がまとめられているなど、児童にとって使いやすいと考えられる。単元の導入で学習ゲームを設定するなどの工夫により、楽しみながら学習をつかみ、主体的に学習を進められる構成になっていることも評価できる。
- ・ 大日本図書の教科書は、多彩なウェブコンテンツやリンクなどが準備されており、現代的な諸課題について児童が意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。また、各小単元末にQRコードが用意され、その単元に合わせた動画等を視聴することにより、学習を深められる工夫もなされている。
- ・ 保健の学習においては、心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することが求められる。大日本図書の教科書は、保健の見方・考え方の育成を重視し、学習したことを生活で生かす活動を取り入れるなどの配慮が見られる。身の回りを振り返りながら心身の健康に関する課題を見つけ、対話的な活動を通して健康や安全の大切さを実感できるよう編集されている。これまでの意見もふまえて、大日本図書の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「大日本図書」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校外国語の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、開隆堂、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館の6社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校外国語の質疑

- ・ 小学校英語では、イラストやカード等、付属資料が学習に役立つと考えられるが、各教科書ではどのような工夫がなされているか。

→ 各教科書とも、イラストや写真が豊富にかつ効果的に使用され、活動内容がよく分かるように工夫されている。東京書籍は、2年間使用できるマイピクチャーディクショナリーが別冊で用意されている。これは、単語がジャンル別に分類され、目的・場面・状況をもとに、「本当に言いたいことを伝える」言語活動に活用することができる。

- ・ 聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎を養う点について各教科書はどう配慮しているか。

→ どの教科書も4技能の言語活動が設定され、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うよう配慮されている。聞く・話す活動を重視している教科書も見られた。その中で、東京書籍では4技能5領域の活動が自然な流れで設定され、最も効果的にコミュニケーション能力の育成が期待できる。

- ・ 世界の文化・日本の文化に興味・関心をもたせ、国際協調の精神を養わせるために、各教科書はどのような配慮がなされているか。

→ どの教科書も世界や日本の文化に触れ、国際的な視野を広げることができるよう工夫されている。特に東京書籍は、身近なことから日本の紹介へと視野を広げていき、次に世界や日本のつながりについて考えさせる構成である。自国の文化の良さに気付かせ、それを発信する力を身に付けさせようとしており、国際協調の精神を養うことができると考える。

○ 小学校外国語の協議

- ・ 各会社とも、学習内容を理解するためのイラストや写真等が豊富に用意されている。その中で、東京書籍のピクチャーディクショナリーはジャンル別に分類され、巻末資料も豊富で児童が使いやすいように工夫されている。主体的な学びを支える観点からも適している。

- ・ 小学校外国語の学習において、コミュニケーション能力の育成だけでなく、文化に対する理解を深めることが大切であると考え。東京書籍の教科書は、日本の伝統や文化に関する題材が豊富で、自国の文化のよさを学ぶとともに、それを発信しようとする態度を養うよう工夫されている。

- ・ 小学校外国語では、スモールステップで学習を積み重ね、4技能5領域の活動を進めていくことが大切である。東京書籍の教科書は、目的や場面、状況に応じた英語表現を伝え合えるように組み立てが工夫されている。また、自分の思いや考えを伝え合う活動が豊富で、主体的にコミュニケーションを計ろうとする態度を育成するよう編集されている。また、自分や身近な地域から世界へと視野を広げ、SDGsや異文化理解など国際的な視点を育成する工夫も見られる。これまでの意見もふまえて、

東京書籍の教科書を選定してはどうか。

- ・ 協議の結果、全員一致で「東京書籍」のものを選定する教科書として決定。

○ 小学校道德の報告

- ・ 見本本の送付のあった東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研の6社について研究し、報告（学習指導要領との関連、あいちの教育の基本理念との関連、内容、表記・表現及び使用上の便宜等、印刷・造本等）。

○ 小学校外道德の質疑

- ・ 児童にとって興味や関心が高まるような工夫、また、安心して学ぶことができるような工夫などは見られたか。

→ まず、多くの発行者がAB判を中心に、視覚効果の高いワイドな教科書サイズを採用しており、どれも紙面を有効活用されている。美しい挿絵、温かみのある挿絵や、親しみやすい漫画やイラスト、ダイナミックな写真などなど、児童がわくわくするようなレイアウトになっている。そして、読み物教材ばかりではなく、コラムのようなちょっとした場面設定や、「こんなときどうする?」「こんなことはないですか?」「『自由』って何だろう?」などと、児童がこれまでの経験から考えられるような教材や、「考えてみたい」、「話し合ってみよう」と思えるような教材が多く盛り込まれている。また、どの発行者も、文字や色使い等においてはユニバーサルデザインは必須で、見やすく、読みやすい教科書を追究されている。

- ・ 目まぐるしく変わる今の時代を生きる子どもたちにとっての「現代的な課題」とは、各社、どういったものがあると捉えているか。

→ 「現代的な課題」については、各社、言葉のチョイスは違えど、基本的には、「いじめ」「いのち」「自己肯定感」「多様性」「情報モラル」「安心・安全」というようなワードで5、6種類の枠組みとして設定されている。学習指導要領においても、「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」「情報化への対応」「いじめ問題への対応」等という文言が、現代的な課題の例として表記されている。

- ・ 「考え、議論する道德」について、どのような工夫や配慮がされていたか。

→ まず、各社、魅力的な教材が選択、配置されており、例えば登場人物への思いが高まるようなものであったり、悩みや葛藤などの心の揺れといったものだったり、子どもたちが深く考え、互いに意見交換し合いたくなるような教材が多くある。そして、教材末に教材内容を理解するための発問や道德的価値について考える発問などを設け、児童の思考を促し、考えをより深められるような工夫がされている。子ども同士が話し合う場面において、議論が進むように「話し合いのコツ」など上手な話し合いの仕方について学ぶ学習内容も盛り込まれている教科書が多かった。

○ 小学校道德の協議

- ・ 光村図書においては、「いじめ問題」「情報モラル」「共生」といった現代的な課題について、それに関する教材とコラムを組み合わせて扱う「ユニット」を設定し、児童が時間をかけて学べるよう

編集されている。また、1時間の学びの構成が捉えやすく、児童が主体的に見通しをもって学ぶことができる。

- ・ 各会社とも、多様な価値観にふれ、多面的・多角的な見方や考え方ができるように配慮されている。光村図書の教科書は、巻頭や巻末に学び方や話し合いのこつなどが示され、多面的・多角的な見方や考え方を養うための学びの土台づくりに工夫が見られる。
- ・ 「考え、議論する道徳」とは、子どもが自己の生き方を見つめながら、多様な視点から話し合い、対話を通して自己のよりよい生き方を考える学習であると考え。さまざまな切り口の教材に出会うことは、道徳的価値について深く考え、自分自身の生き方を見つめる出発点となる。光村図書の教科書は、読み物教材だけでなく、日常場面や経験をもとに道徳的価値について話し合う教材を取り扱い、主体的に学ぶことができるよう配慮されている。これまでの意見もふまえて、光村図書の教科書を選定してはどうか。
- ・ 協議の結果、全員一致で「光村図書」のものを選定する教科書として決定。

5 連絡、依頼事項

- 採択協議会事務局のローテーションについて
- 資料の取り扱いなどに関する連絡

6 閉会

- 閉会宣言